

# 裏金国会

## を問う

(1面参照)

自民党派閥の政治資金パーティー裏金事件により、国民の政治不信は頂点に達した。にもかかわらず、岸田文雄首相や閣僚、自民党幹部らの国会答弁、記者会見での発言からは危機感が見えない。対面する野党やマスコミの後ろに多数の有権者がいることを分かっていないのではないか。

政治不信を払拭するには、まずは実態解明だ。党内調査などで済ませず、第三者委員会をつくらない

と。そして、問題に関わった議員にペナルティーを科すこと。次の選挙では公認しないといったのも選択肢だ。

政治不信が高まり続ければ、与野党問わず議員一人一人、垣根を越えて議論を深

く、垣根を越えて議論を深め、膨張が大きな問題になった。巨額の資金が何に使われ、本当にその国や地域の役に立っているのかが見え

# 垣根越え議論深めよ

## 10 斎藤 勁さん

元内閣官房副長官



さいとう・つよし 1945年横浜市生まれ。95年参院初当選。野田政権で内閣官房副長官。昨年から沖縄県政策参与。

ず、超党派で資金の流れや使途をチェックした。政党内で「この問題に取り組まなければならぬ」という共通の問題意識があった。今の国会を見ていると、そういう機運がだんだんなくなってきたと感じる。

地域本位の視点が失われ、どんどん中央集権化が進んでいるとも感じる。国会議員は永田町で全てを決めるのではなく、もっと真摯(しんし)に国民の声に耳を傾けなければならぬ。国会はそれぞれの立場で議論を尽くし、決定する場所だ。国民の代表である国会議員がその自覚をより強く持ち、自発的に政治と力ネの問題に向き合うことが、喫緊の課題だ。